

第27号 華山会報

平成23年11月1日

財団法人華山会

渡辺華山筆『溪澗野雉図』と椿椿山筆『足利遊記』について

山形美術館 主任学芸員 月本 寿彦



山形美術館に所蔵されている長谷川コレクションのなかに、渡辺華山による『溪澗野雉図』（山形県指定有形文化財）があります。この作品は、華山晩年の代表作であり、全国的に多くの美術館や博物館に貸し出して公開してきた経緯もあるので、ご存じの方も多いいと思います。特に今年の五月二十一日から七月十日にかけて田原市博物館で開催された平常展「渡辺華山と椿椿山の花鳥画」では、本図の下稿が展示され、すでに詳しく紹介されています。本文では、この作品がいかんにして山形美術館に入ったか、あわせて、本作品の縮図が掲載された、椿椿山による『足利遊記』に触れてみたいと思います。

長谷川コレクションとは、江戸時代から続く豪商で、近代以降は山形の経済界に多大な貢献をした、丸山長谷川家と丸谷長谷川家の両家が、数度にわたり山形美術館に寄贈した、近世・近代絵画のコレクションです。重要文化財の与謝蕪村筆『奥の細道図屏風』をはじめ、山形県指定有形文化財11点を含む約300点の作品群で構成されています。『溪澗野雉図』は、山形銀行頭取の長谷川吉三郎氏の収集品ですが、没後の一九六八（昭和四十三）年、ご子息によって山形美術館（当時の名称）に寄贈されました。

渡辺華山の『溪澗野雉図』は、中国明時代の画家、呉維翰による原画を華山が写したもので、わずかに華山独自の変容がみられます。この作品を取り扱った、東京の美術商・本山竹荘が売却先の長谷川吉三郎氏に宛てた譲り状によると、遠江（静岡県）の明昭寺の住職・水雲和尚が、寺の什宝にと、華山門人の友人を通じて描いてもらったとされています。落款による制作年は一八三七（天保八）年ですが、いくつかの傍証により、実際にはもう少し後の田原塾居中に描いているのでは、という指摘もあります。それが事実だとすれば、制作年を偽ったのは、塾居中の制作とするには、外聞をはばかるほどの大作だったからでしょう。そこで推理ですが、華山門人の福田半香は遠江出身です。もしかするとこの作品は、半香が仲介者となり師のために取引をまとめた成果なのかもしれません。やがて明治維新を迎え、明昭寺が所蔵品を整理するとの話を聞きつけた掛川の葉種商古沢多賀蔵が百円で購入しました。しかし商売が傾いた古沢は、東京日本橋に住む画家・渡辺小華（華山の子）に処分を依頼、あげく一八八四（明治十七）年京橋の酒問屋（瓶詰め酒輸入の先駆けとなった）説田彦助に二百五十円で購入されました。「酒」の字になぞらえたものか「説田の水呑み雉子か水呑み雉子の説田か」と評判になったそうです。やがて昭和に入り、長野の実力者で貴族院議員の小坂順造がこれを購入。さらに一九四一（昭和十六）年、前述の本山竹荘が八万円で購入しました。一九三七年頃の公務員の初任給が七十五円ですから、いかに大きい金額かわかります。最初の購入者である多賀蔵は手放したことを終生悔やんだといわれています。そして一九四三年、椿椿山の『足利遊記』とともに長谷川吉三郎氏のコレクションとなりました。

『足利遊記』は、椿山が華山没後一周忌を迎えようとする一八四二（天保十三）年八月に、華山が『毛武遊記』をしたためた足利・桐生方面へ、亡き師の面影を偲びながら訪ね歩いた旅行記です。秋を迎えつつある旧暦八月十一日に出発し、二十八日に帰宅するまで目にした気候、風物、食べ物、景色の有様を文章や草画で残しています。しかしとりわけ椿山が興味を示したのは華山知己の人物を紹介する師の遺墨や、様々な書画類です。椿山は積極的にこれらを模写。本書の後半はほぼそれらの模写で占められているくらいです。こうした研究心の表れは、華山や谷文晁にも通じる実証主義的な精神に基づいているのではないのでしょうか。図入りで掲載されている一文に「視平（水平線のことか）ト云フハ、天地ノ極ヲ立ル事ニテ、己カ目力ノ上下左右ノ中ヲ立ル。コレ寫真ノ準也」とあります。

『溪澗野雉図』の縮図は同道した弟弟子、山本琴谷の縮図帳の写しではないかと言われています。



歴史を発見する

田原市議会議長
眞木正五

私が住む童浦校区は、昭和四十二年（一九六七）に始まる臨海工業地帯の造成により、田原市内で最も大きな変貌を遂げた地域です。「童浦」という名前は、昭和四十三年（一九六八）に田原北部小学校と田原西部小学校が統合、開校し、現在では小学校の名前にもなっていますが、かつて、明治二十二年（一八八九）に吉胡・浦・波瀬・片浜・白谷の五村がまとまり、童浦村が誕生したのが名前として確認できる「童浦」にあたります。校区内には、縄文時代後

晩期の日本を代表する貝塚遺跡である吉胡貝塚があり、大正十一年（一九二二）から十二年に京都大学の清野謙次博士が調査を実施し、三百体以上の人骨が発見されて有名となり、昭和二十六年（一九五二）には、文化財保護法に基づく日本で第一号の国営発掘調査が実施されました。土器、石器、骨角器、縄文人骨などが多数出土し、その年の十二月二十六日に、国指定史跡となりました。縄文時代から人が暮らし、生活を営

んでいたことがわかります。最近では、旧五地区以外に新興住宅地域である六地区が行政地区として加わり、臨海企業に勤めているサラリーマン世帯を中心とした他地域からの転入者が増加しています。こうした中、校区民が校区の成り立ちや歴史文化を知り、校区に愛着を持つことが重要であると考えています。

平成十六年（二〇〇四）に浦区ふれあいセンターが完成しました。センターが建設される数年前から浦区では、変貌をとげた校区の姿を残しておきたいと考え、校区民の方呼びかけ、写真を集めました。センターの完成に合わせて、写真を引き伸ばして掲示し、大きく変わってきた風景を子供達も見ることができました。また、平成十九年に吉胡貝塚史跡公園がオープンし、「シェルマよしご」が開館しました。平成二十年には童浦市民館に歴史年表を掲示し、収集した写真もファイルで見られるようにしました。

童浦の歴史はそれぞれの時代ごとに発見され、人々の暮らしの知恵がつながれています。童浦以外の各校区や地区でも郷土の歴史をまとめ、家族内で子どもさんやお孫さんとの共通の話題を作っていくことが地域

のコミュニケーション作りに役立つと考えています。

また、田原の文化財ガイドとして『ふるさとの偉人を訪ねる 田原を築いた人びと』が出版されました。身近なところから地域のことを知ることができるものを目にするのとふるさとへの愛着がわきます。過去の歴史や先人を学ぶことで、市民のふるさと学習にも活用でき、学校教育での使用もできるものです。歴史から郷土への誇りや愛着を持つ人が増えることが重要だと感じます。

渡辺華山先生が亡くなられたこの田原の地には、城宝寺のお墓や霊牌堂もあり、晩年を暮らした池ノ原の地も公園整備され、銅像があり、いつもその姿を我々に見せてくれます。私が上京した折に、生誕の地である東京の三宅坂交差点に行ってみると、「渡辺華山誕生地」という看板が立てられているだけで、田原のように華山先生の姿を見ることはできません。生誕二百二十年にあたる二〇一三年に可能であれば、その姿を生誕された東京の地で見ることができれば、より一層田原の地を誇れるような気がします。

目次

- 題字「華山会報」元華山会理事 故小澤耕一氏
- P① 渡辺華山筆『溪澗野雉図』と椿椿山筆『足利遊記』について 月本寿彦
- P② 歴史を発見する 眞木正五
- 目次
- P③ 画家渡辺華山の心象 『御母堂栄之像画稿』
- P④ 渡辺華山『毛武遊記』④
- P⑧ 博物館収蔵品から 渡辺華山筆
- 『客坐掌記（天保九年）』⑤
- P⑩ 「少年物語渡辺華山」 読書感想文
- P⑭ 華山の田原行（十二） 財団法人華山会 からのご案内
- P⑯ 田原市博物館

画家渡辺華山の心象

田原市指定文化財 御母堂栄之

像画稿

天保年間（一八四十年頃か）

紙本着色

縦三六・五cm 横三一・〇cm

田原市博物館蔵

華山の母は、旗本で摂津国（現大阪府）高槻藩主の永井大和守の家臣河村彦左衛門の娘にあたる。夫、定通との間に五男三女の子をもうけ、二十二歳で長男の華山を生んだ。華山が四十七歳の時



に書いた『退役願書稿』（重要文化財・田原市博物館蔵）によれば、「唯母之手一つにて、老祖・病父・私共、其日を送候事故…」とあり、子供達を育てながら、姑の世話、病気がちの夫の看護を続け、「私母、近來迄夜中寐（寝）候に、蒲団と申もの、夜着と申もの、引かけ候を見及不申、やぶれ畳之上にござる寐（寝）仕、冬は炬燵にふせり申候。」と書

き、非常に苦勞していたことがわかる。画面中央左に「全樂堂文庫」印が捺されている。元は渡辺家にあつたものであろう。渡辺家には、この作品の稿と考えられる作品（田原市博物館蔵・田原市指定文化財）があつた。華山が田原幽居中に描いたものと考えれば、七十歳頃の姿である。その姿は、姿勢を正し、母親を描いているという優しさよりは、

武士の妻らしく凛とした気丈夫な一人の女を描ききることに集中しているように感じられる。自刃する前に認めた長

男への遺書には、「御祖母様御存中 八何卒御機嫌能孝行を盡べし其方母不幸之もの又孝行盡べし」と記し、年老いた母と妻への孝養を言い残している。

田原市博物館学芸員 鈴木利昌

渡辺華山『毛武遊記』④

研究会員 加藤克己

吹あげといふ処に籠おろし、おのこども飯す。又行、久下といふ。

久下次郎^ノ故趾、土俗云。久家^{（マ）}（下）与梶原景時^レ有^レ隔、及^レ戦^レ争^ニ敗^レ亡^{（スト）}。

吹上という所に駕籠をおろし、（駕籠かきの）男たちが食事をする。また行く。久下（武蔵国大里郡久下村、埼玉県熊谷市久下）という（所に来た）。

久下次郎の古跡である。土地の住民が言う。久下は梶原景時と対立し、戦争に及び、敗れ滅びたと。

※ 吹あげ 吹上。武蔵国足立郡吹上村（埼玉県鴻巣市吹上）。公式の宿ではないが、鴻巣と熊谷の間が長いので、途中に休憩場所が求められ、その間の「あいの宿」として発展した。

※ 久下次郎 久下直光。生没年不詳。久下郷を本拠とした武士。熊谷直実の叔母の夫であるが、所領の境界をめぐって直実と対立した。『吾妻鏡』によれば、建久三年（一一九二）、源頼朝の前で熊谷直実と対決した境争論が直光有利に進んだ。怒った直実は、梶原景時が直光を鼻肩しているから訴訟は無駄だと考えて、訴訟文書を投げ捨てて立ち去り、出家したという。すなわち、華山が聞いた話とは逆

に、久下直光は梶原景時と親しい関係にあったようである。しかし、その後、久下氏は『吾妻鏡』に登場せず、元久二年（一二〇五）六月二十八日条に、久下郷を勝長寿院弥勒堂領に寄進したとあるので、久下氏は鎌倉時代の初期に衰えたものと思われる。なお、久下氏は丹波国栗作郷の地頭に補任され、承久の乱後本拠地をそちらに移したということであり、家は続いている。久下の東竹院に直光・重光父子の墓がある。館跡は不明。

※ 梶原景時 ？―一二〇〇。名字の地は相模国鎌倉郡梶原（神奈川県鎌倉市）。源頼朝の信頼が厚く、侍所所司など幕府の要職にあったが、正治元年（一一九九）正月に頼朝が亡くなると、御家人相互の対立の中で同年末に鎌倉を追放された。所領のある相模国一宮（神奈川県高座郡寒川町）に籠ったが、翌年、上洛を試み、途中で駿河国清見関（静岡市清水区興津清見寺町）付近で討たれ、一族滅亡した。

荒川といふ川にて、アミしとりたるとてちいさき魚をたらひに入る。めづらかなれ、うつす。此家ハたゞひとつ家にて、飯酒ひさぎいと大きやかなる家居なれど、あるじいと素朴なり。

荒川という川において、網をしかけて獲ったとあって小さい魚（鰍であろう。すぐ後に「鰍図」とある）をたらひに入れてあった。珍しいので、書き写す。この家はただひとつの家であって、食べ物と酒を売っており、たいへん大きく見える家

であるけれど、主人はたいへん素朴である。

※ 荒川 埼玉・山梨・長野の三県境にある甲武信岳（二四七五m）に発し、東京湾に注ぐ一七三kmの河川。たびたび洪水被害をもたらす文字通り「荒ぶる川」であったので、一九一〇年の大洪水後、下流域では大改修が行われ、埼玉県御成橋（鴻巣市・吉見町）付近で川幅が約二五〇〇m、日本最大となった。川幅が広いので、堤防の内側に農地がある。

吹上図 （図なし。二ページ白紙）
鰍図 （図なし。二ページ白紙）

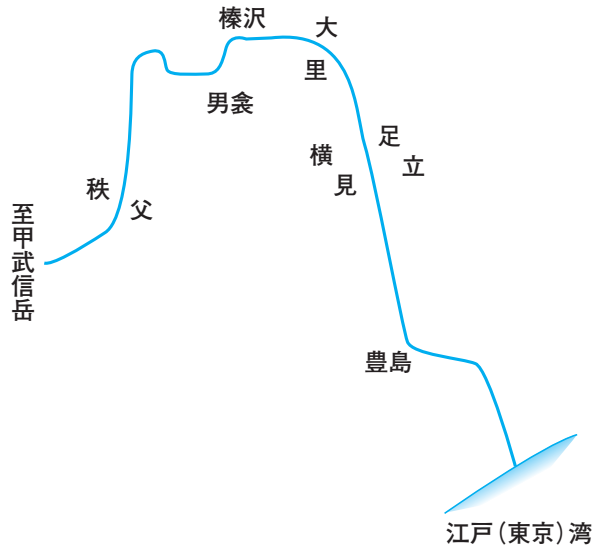
※ 吹上は鴻巣の宿を出て七キロメートルほどの所なので、駕籠かきの男の食事は朝食である。華山は宿で食べたので、ここでは観察・スケッチの時間があつた。鰍については、本文に「うつす」とあるので、書いたはずである。したがって、両図ともその場では別の紙に下書きをし、あとで清書しようと思つて空欄にしておいたのではないだろうか。

荒川にそひ行。熊谷の土手と

荒川 源^自秩父山中^北流、限^リ男衾、榛沢二郡^東流、入^リ大里郡^又東、為^シ足立、横見二郡^之界、至^リ豊島^北流、又東流、注^シ海。

いふハたゞこの荒川害をおそれ、其長さおよそ三里もありぬらん。堤に早樹をうへ人をしあかしむ。

荒川の流路と本文に記された郡名 (略図)



荒川に沿って行く。熊谷の土手と
 荒川の源は秩父の山中から出て北流し、男衾
 (明治二十九年大里郡に併合)・榛沢(明治二
 十九年大里郡に併合)の二郡を限って東流し、
 大里郡(明治二十九年幡羅郡・榛沢郡・男衾郡
 を統合)に入つてまた東、足立(明治四年北足
 立郡は埼玉県、南足立郡は東京府に属す)・横
 見(明治二十九年比企郡に併合)の二郡の境界
 をなして、豊島郡(明治十一年南北豊島郡に分
 割、東京都豊島区)に至つて北流し、また東流
 して海に注いでいる。
 いうのは、ただこの荒川の害を恐れて、その長さ
 はおよそ三里(約十二km)もあるであろう。堤に

さいかちの木を植え、(通行)人を十分に満足さ
 せている。

※ **荒川にそひ行。熊谷の土手** 当時の中山道は、
 久下のあたりでは現在の堤防と同じ位置かや
 や外側を通っていた。荒川の流路からはずい
 ぶん離れており、川の水は見えなかつたであ
 る。荒川はその後大規模な工事が行われ、
 川幅が広げられたので、当時の土手と現在の
 堤防とは違うが、明治時代の地形図(江戸時
 代後期の実態とほぼ同じか)を見ると、久下
 付近では現在の堤防とほぼ同じ位置に土手が
 ある。ただし、土手の内側に農地だけでなく、
 集落もあり、土手は幾重かに築かれたよう
 である。現在は堤防の内側には農地はあるが、
 集落はない。
 ※ **至豊島北流** 「豊島郡に至るまで南流」の間
 違い。

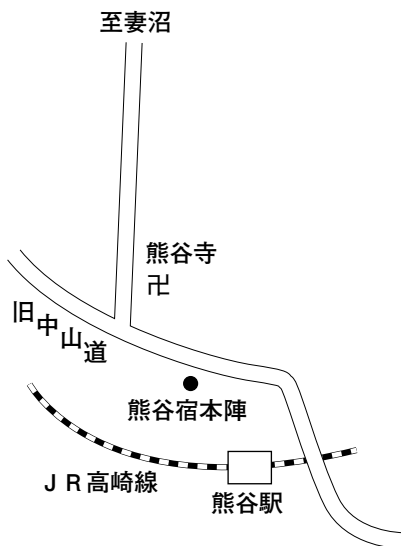
熊谷にいたる。此駅甚にぎはしう、瓦茨、鱗の
 やうにならびたり。凡千戸にもおよぶべし。
 台屋といふ酒店に吉兵衛先かけていたり、酒飯
 す。梧庵此処にて馬より下り、僕弥介と代る。
 此径より桐生の道なり。たゞ田圃の間を行。前
 に日光、赤城、三国の峰々ならび立て、いとけ
 しきよし。雨晴風はげし。奈良、吹上、善が谷、
 妻沼。

熊谷に至る。この宿駅はたいへんにぎやかで、
 瓦や草ぶきの屋根が鱗のように並び立っている。
 およそ千戸にも及ぶようである。台屋という酒店

に吉兵衛が先がけて至り、飲食している。梧庵は
 ここで馬からおりて、下僕の弥介と代わつた。こ
 の道より(中山道から分かれて)桐生へ向かう道
 である。ただ田んぼの間を行く。前に日光・赤
 城・三国の峰々が並び立っていて、たいへん景色
 がよい。雨は晴れて風が激しい。奈良、吹上、善
 が谷、妻沼。

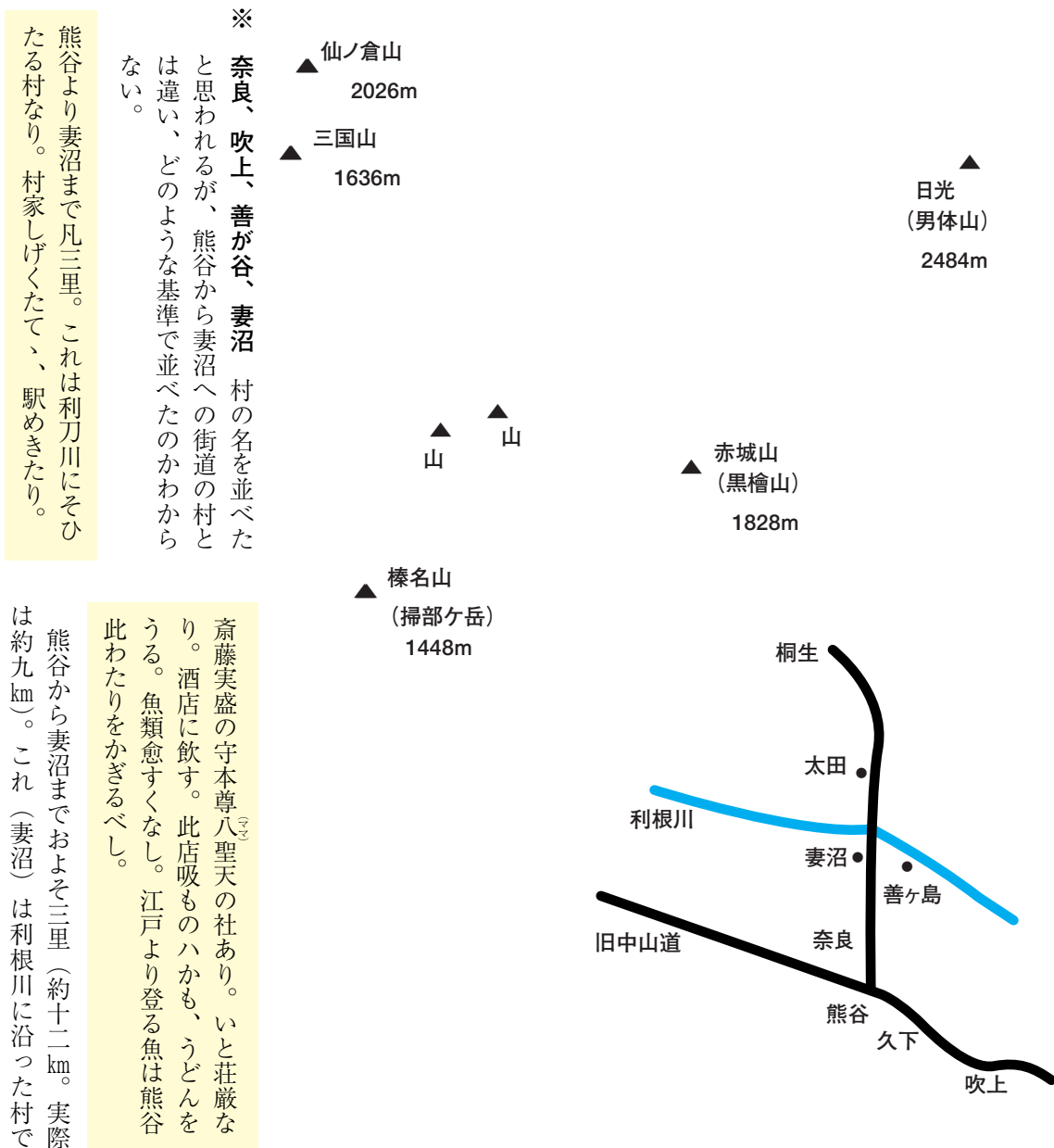
※ **凡千戸** どこで得た情報か分からないが、熊
 谷町の家数は天保十三年(一八四二)に一〇
 二二軒ということなので、これは正しい。
 ※ **桐生の道** 熊谷直実が建てた熊谷寺を過ぎた
 ところで中山道から分かれて桐生へ向かう。
 熊谷太田間は熊谷太田道、新田街道、妻沼道
 などとも言ひ、上州(群馬県)側は古戸桐生
 道とも言つた。熊谷寺のすぐ近くを通つたの
 であるが、直実や熊谷寺についての記述がな

熊谷略図



- ※ 日光 日光火山群の男体山（二四八四m）、女峰山（二四六六m）、太郎山（二三六八m）の三山を指す。栃木県日光市。
- ※ 赤城 赤城山。群馬県北群馬郡・利根郡にまたがる休火山。最高峰は黒檜岳（二八二八m）
- ※ 三国の峰 三国山。群馬県利根郡新治村と新潟県南魚沼郡湯沢町にまたがる山。標高一六三六m。三国の地名は、越後・信濃・上野の三カ国の国境に位置することに由来するが、実際にはその国境になっていない。しかし、華山が見たのは三国山ではないと思われる。手前の山が邪魔で、この山が見えるか疑問である。見えたとしても、遠くて低いから見える高さは赤城山の半分くらいであろう。並びからすると、榛名山（最高峰は掃部ヶ岳、一四四八m。三国山よりやや低い）、近いから高く見える）の間違いではないだろうか。
- ※ 奈良 武蔵国幡羅郡（熊谷市）。奈良村は、近世には上奈良村・中奈良村・下奈良村・奈良新田に分かれていた。
- ※ 善が谷 武蔵国幡羅郡善ヶ島村（熊谷市善ヶ島）か。
- ※ 妻沼 武蔵国幡羅郡妻沼村（熊谷市妻沼）。中山道熊谷宿あたりから上野国への脇往還の宿駅。

山と町村の位置関係（略図）



熊谷より妻沼まで凡三里。これは利刀川にそびたる村なり。村家しげくたて、駅めきたり。

熊谷から妻沼までおよそ三里（約十二km。実際は約九km）。これ（妻沼）は利根川に沿った村で

※ 奈良、吹上、善が谷、妻沼 村の名を並べたと思われるが、熊谷から妻沼への街道の村とは違い、どのような基準で並べたのかわからない。

齋藤実盛の守本尊八聖天マモの社あり。いと荘厳なり。酒店に飲す。此店吸ものハかも、うどんをうる。魚類愈すくなし。江戸より登る魚は熊谷此わたりをかざるべし。

妻沼聖天山（聖天の社）



ある。村家が集まって建っており、宿駅のようにある。斎藤実盛の守り本尊の聖天の社がある。たいへん荘厳である。酒店で飲酒する。この店は、吸い物は鴨、うどんを売っている。魚類は非常に少ない。江戸から登ってくる魚は熊谷妻沼あたりが限界である。

※

利刀川 利根川。越後山脈の大水上山付近に発し、関東平野を北西から南東へ斜めに横断し、銚子付近で太平洋に注ぐ川。幹川流露延長は三二二kmで日本では信濃川に次ぐ長さであるが、全流域面積は一六八四〇平方kmで日本最大。元は東京湾に注いでいたが、十七世紀に幕府による流路変更工事で銚子から太平洋に流出するようになった。

※

斎藤実盛 ？—一八三。武蔵国幡羅郡長井莊（熊谷市北部、旧大里郡妻沼町）に住し、長井斎藤別当と称す。源義朝に従って保元・平治の乱に出陣したが、義朝滅亡後は平宗盛

に仕え、源頼朝挙兵後も平氏への忠節を貫いた。『平家物語』によれば、寿永二年（一一八三）、平維盛に従って加賀国篠原（石川県加賀市）で源義仲軍と戦った際、七十余歳の高齡を隠すため、白髪を黒く染めて奮戦し、討ち死にした。

※

聖天の社 妻沼聖天山。長井莊の総鎮守。斎藤実盛が創建したと伝わる。江戸時代、朱印五十石。熊谷市妻沼。

（熊谷駅図）



熊谷駅図

（続）

田原市博物館収蔵品から 渡辺崋山筆『客坐掌記(天保九年)』⑤



三社託

大明梅屋居士書

行伯(子羽)

「ボル子ラ」ハ或ハ「ベレラ」ト云、ヒヨウケレマシメント云、国人ハ「ベレラ」ト呼

又タヤツケル人ハ「バルヌイ」ト云、新和蘭に近、地球中大島

ニテ亜細亜に属ス。シユクタノ海門、半島、滿刺加ノ東ニ在テ、

南緯四度、北緯七度半、東西径百二十七度三十分ヨリ

百三十九度三十分間ニ亘ル、其長サ十分ニ、百二十五里、幅員百

七八十里、コヲ以テ其地面弘良察全国ヨリ甚大也。実ニ

「ハンテンホス」人名ノ説ノ如シ、此島ハ千五百三十年ホルト人「ゲラル

キユス・デ・メ子ツセ」ヨリ但千六百九十年前ホルト人バンユーマツシング

ト云所ニ六落ツカス、子テララント人ハ巳千六百四年ニシコツカタナ」ト

云所ヲ領分ニせし也、今ニ至マテ此島海岸十一、二里ヨリ深キ

奥地ハ欧邏巴人ニ知レザル也、是ハ林ト広野并ニ能

道路多ク、且土人ノ暴戾にて、其先ニ進ムコトヲ防タケタル

也。北ヨリ南ヘ向キ海岸ニ添ふて坐ノ山アリ、多ノ水

晶ヲ産ス、コヲモテ「子テララント」人ハ水晶山下名ク。

山頂ノツハ火山也、コレヲ「チガフラト」名ク。概テ島国、多分

梅屋 十時梅屋(一七四九一八〇四)、名業・賜・字季長・子羽、

通称半蔵、号梅屋・福亭・清夢軒、伊藤東所に学び、天明四年

(一七八四)伊勢長島藩儒となり、藩校文礼館の祭酒となった、書

画・詩文・篆刻を能くした。(国書人名③ 412)

ボル子ラ 勃泥、インドネシアのカリマンタン、北西部はマレーシ

ア、(サラワク州)ブルネイ。

ベレラ プルネイか。

ヒヨウ オランダ語、Volcan 火山島。

ケレマシント カリマンタン。

タヤツケル ダヤク族、非イスラム系先住民を指してオランダ人が

用いた総称。

バルヌイ プルネイ Borneo。

新和蘭 オーストラリア。

地球中大島 グリーンランド、ニューギニアに次ぐ世界第三の島、

面積約七五万キロメートル、人口約七〇〇万人。

シユクタノ海門 Sunda シヤワ島 スマトラ島の間のスタ海峡。

滿刺加 マレー半島のマラッカ。

東西径百二十七度三十分 現在、〇九度三十分である、古代ギ

リシのフレイトイオスの世界地図は、本初子午線として、カナリ

ア諸島のイゴ(旧称フエ)島を通っていた、これは六三四年のパ

リ会議で確定されたが、一八八四年のワシントン会議で八度東のイ

ギリスグリニッジ天文台を本初子午線とした。

.....

弘良察 フランス 面積約五四万平方キロメートル。

ハンテンホス ヨハネス・ファン・デン・ボス Bosch Johannes van

den Bosch(一七八〇一八四四一八三〇年オランダ東インド総督、一八三

四年植民大臣となる)。

ホルト ボルトガル Portugal。

ゲオルキウス・デ・メ子ツセ 未詳。

バンユーマツシング Banjarmasin バンジルマシ、南カリマンタン、

一六〇六年以来胡椒の集散地、一七三三年城砦、商館を築く。

子テララント人 Neerlanden オランダ人。

シコツカタナ Sukadana スカダナイインドネシア、西カリマンタン

西部の港町、一六二三年に、ヤワ人が当地を略奪したため、オラン

ダヒイギリスは引き揚げた。

水晶山 未詳。

チガフラト 未詳。



火山多、ハケシキ地震多キガ如ク、山ノ麓ニ天ナル湖水アリ、コレヨリ「バンサル」一名「バンイルマツシク」、一ハ「ボンチャアナ」、一ハ「ラハ」、サンバス、ヨンケン等ノ諸ノ河、生セリ。コヲ以テ年々ノ海岸卑クナリ、地温ニシテ、^{航海ニ}不宣也。此地熱地ナレトモ、万ノ海風にヨリ涼ク、又雨多、且昼夜ノ一般ニ揃フ事にて、大ニ宜敷氣候ナリ、但シ湿気あれ、甚不宣、此処ニ六唯、二氣候アリ、則、日照り時と雨時と也、又颶風及不天気も稀ナラス、産物ハ金剛玉、^{チヤン}其、中ハ、或ニ、三十寸四十カラ一テ程アリ、金多く、別而「ランダック」バンユールマツシクの間ニ多シ、鉄、銅、錫も又アリ、錫ニハ鉛ヲ交ヘカリント名ク。北海岸ニ六真珠、其他、砂糖、胡椒、肉豆蔻、^{*}丁子、桂枝、米、生姜、^{*}「ベテルト」、^{*}亜細亜ニ比ナキ龍腦 コレト知れざる木ヨリ。ヤニの姓流出ス。其年々四千五百目送り出ス。 ^{*}麟ケツ、安息香、杉及他の良木、并に諸材木甚多シ、支那人、其職人共、^{*}此に來て其船を造営す、又、能キ南果、綿、竹、^{*}スハンセリート、^{*}西国米、食スヘキ鳥、能キ天堂鳥、^{*}ヘソアル、蠟、狸々、^{*}ボンゴス、象、虎、大ナル野牛、ズエー子レ、水牛、魚、^{*}大亀蛇（アツリカルトス）、此住人ヲ三百万人トシ、又

地震多キ 環太平洋造山帯、火山、地震、津波が多い。
 バンサル 未詳。
 バンイルマツシク 未詳。
 ボンチャアナ ポンティアアナク。Ponitana。西カリマンタンの港湾都市、ボルネオ島西部、カプアス川デルタ北部、南シナ海に臨む、物資の集散地。
 ラハ 未詳。
 サンバス Sambahs。インドネシア、西カリマンタン州、商館があつた。
 ヨンケン 未詳。
 熱地 熱帯雨林氣候。
 二氣候 乾季と雨季。
 颶風 台風。
 金剛玉 ダイヤモンド diamond。
 カラテン Karaten 200ミリグラム。
 ランダック ランダック川、河口はポンティアナ。
 錫 錫はマライ半島に多く産出する。
 カリン ハンダ。
 肉豆蔻 ニクズク、薬用にする、果皮は肉質、健胃薬、香味料に使われる。
 丁子 丁香の実、香料にする。
 桂枝 香木、ニッケイ。
 ベテルト 未詳。
 龍腦 樟腦。
 麟麟ケツ 麟麟血 竜血樹の果実からとれる紅色の樹脂、着色剤、防蝕剤となる。
 安息香 アルソク香。
 スハンセリート 藤。
 天堂鳥 極楽鳥。
 ヘソアル 未詳。
 蠟 蜜蠟。
 狸々ランウータン orang octan。
 ボンゴス ヨリラ pongo。
 ズエー子レ 豚 zwin。
 大亀蛇 鱷 alligator。

「少年物語 渡辺華山」

読書感想文について

福江小学校 天野史菜

渡辺華山を知って



財団法人華山会では、郷土の偉人渡辺華山先生の功績を後世に伝える事業の一環として、毎年市内小学六年生に対し、「少年物語 渡辺華山」の冊子プレゼントしてまいりました。感想文の募集を行ったところ、四十四件の応募をいただきました。

この中から優秀賞に選定されました五点の作品をご紹介します。

応募いただきました児童の皆さんやご協力をいただきました各学校の先生方々に厚くお礼申し上げます。

財団法人華山会事務局

私は『少年物語渡辺華山』を読むまで、渡辺華山という人のことを何となくしか知りませんでした。ただ、れき史に残るようなことをしたということぐらいでした。でも、この本を読んだ後は、華山に対してのイメージが変わりました。華山は、努力をたくさんして、人よりも先の事を考えていた人でした。また、悪口を言われても、自分の意見をつらぬき通したし、人を気づかたりすることもできました。

華山は、小さい時から落ちついていて、それについて、注意深い、そんな子だったそうです。十二歳の時、日本橋の辺りで、岡山備前三十五万石、池田公の若君の大名行列にぶつかってしまい、さんざんののしられ、暴力をふるわれたりしました。でも絶対に、田原藩の武士である事や、父の名前などを言いませんでした。相当つらかったはずなのに、決して言わない。強い心だなあと感じました。私は卓球を習っていますが、この心の強さは、自分に足りない部分なので手本にしたいと思いました。

華山は、蛮社の獄で捕らえられた後、国元の田

原でのちっ居を言い渡されました。その後、華山に対しての悪口がたつてきました。最初は気にしなかった華山でしたが、「との様に対して迷わく」といううわさが耳に入り、自刃しました。この事について私は、うわさをする人が悪いと思いません。また、華山もそこまで、責任を感じなくても良いのとも思いました。

私は、華山のことをもっと知りたくなり、田原市博物館に行きました。そこには、「商人八訓」や、「八勿の訓戒」など華山の有名な言葉が書かれた色紙がありました。その横に「田原ハ武ヲ構ジ徳ヲ敷キ…」という色紙があり、意味が気になったので博物館の人に聞いてみました。すると、次のような意味だと教えてくれました。

『小さな田原が百年先まで生き残るためには、工夫が第一。人を思う「徳」すなわち、人を大事にする心が無いと、田原の存続は危ない』

この意味を知って、私は、(昔書かれたものなのに、現代になっても通じるなんてすごい)と思いました。後になって知ったことですが、田原の図書館や武道場にも、この言葉が書になってかざられていました。

卓球でも、気配り目配りができないと強くなれないと、教えられています。人を思う気持ちや心が、とても重要だと感じました。また、前の方で

書いたように、心を強くしていきたいとも思っています。

華山の残した言葉などを元にして、私も、もっと自分を良く、そして、強くしていきたいです。

『渡辺華山』を読んで

中山小学校 森 下 風 香

華山先生は、まっすぐな人です。決して曲がったことをしない人です。人として正しい道はずさず、いつも清い心で人々のためにつくした人です。その思いやりあふれる行いは、まっすぐな心を表しています。死ぬ時さえも。

華山先生は、正しいと思つたことは何があつても曲げない、まっすぐな意志を持った人です。日本の国を守るために、まっすぐな強い心で立ち向かつていきました。ろう屋にいれられても。病気になるっても。

農作物ができなくて、多くの人がお腹をすかせて死んでしまう年がありました。華山先生は倉に米をたくわえておく方法を考えました。そして、その倉の中に入れる米を寄付しました。自分の絵を売ったお金を全部お米にかえて。そのお米のお

かげで、田原では一人もうえて死ぬ人がいませんでした。華山先生は、自分第一ではないのです。自分のことより人を助ける人なのです。欲がないのです。わたしは、自分の心のせまさに気づいて、はずかしい気持ちになりました。そして、そんな心を持つ華山先生の人がらにどんどん引きよせられていきました。

魚屋の男が商売ができませんといつてきた時は、商売ができるぐらいのお金をかき集めてめぐんであげました。その魚屋がお札に持つてきた魚も買い上げ、買い上げた魚も返してやったのです。自分だって貧しいのに。その他の多くの人にも、救いの手を差し伸べました。こんなに周りの人のことを考えられるなんて。

華山先生は、自分で死を選びました。その理由も、生きているだけで家族やとの様に迷わくがかると考えたからなのでした。自分の命さえも、周りの人のためになら捨てられるなんて。華山先生の生き方は、人として正しく、清らかで、思いやりにあふれていました。そのまっすぐな生き方に、わたしは心をうたれました。

華山先生は、との様を教えられるような大学者になろうと決心をし、毎日毎日、ほんのわずかな合間でも時間をおしんで勉強をしました。こうと決めたことは貫き通す、まっすぐに強い意志を持

っていました。華山先生は日本の将来に不安を抱えていました。日本のために外国の学問を取り入れようと必死になりました。日本という国を守ろうとしたのです。でもそのために牢屋に入れられてしまいました。牢屋に入ることになって、自分の考えを曲げなかつたのです。カビくさい牢屋の中で日本の事、家族のこと、将来の日本への不安を抱えてじっとたえていた華山先生。そのまっすぐな強さに、わたしもそんな人になりたいというあこがれをもちました。

こんなまっすぐに素晴らしい人が田原を守り、田原を育ててくれました。そのことをほこりに思いたいです。そして、わたしもまっすぐに生きていきたいです。

『渡辺華山』を読んで

亀山小学校 山 本 健 人

田原市には、華山会館という建物があります。建物に名前が付くぐらいなのでどんな人なんだろうと思ひ、この本を読んでみました。

渡辺華山は、江戸に産まれ、田原の殿様の家来で渡辺定通の長男でした。華山は、弟や妹が多く

て父親も病気にかかり、家がとても貧しくて好きな勉強もできずに得意な絵を売って生活を助けていきます。学者になりましたが、華山は、時間を見つけては勉強をしていましたが、昔の時代は自由になる時間が少なく、オランダなど外国の本を読むとしても訳してあるわけではないので、大変苦勞しました。今なら分からない事は、辞書やインターネットなどで調べればすぐ答が分かるので、昔と比べるとすごく楽だなあと思いました。

華山は家老になっても、いばるわけでもなく田原藩の殿様や村の人のために、自分のかいた絵などを使って田原藩の借金を減らそうと努めたり、農業のやり方や食用のりなどを研究し、産業を盛んにしたりしました。

多くの家も、キャベツ農家なので、華山のおかげで田原市の農業が盛んになったんだと知り、多くの先祖の生活を楽にしてくれた華山に感謝の気持ちがあわいてきました。

華山は田原藩のためだけではなく、日本の国の事もヨーロッパの植民地になるのではと心配し、高野長英と話をし、志の高い政治家に読んでもらうため、『慎機論』などを書いたり、浦賀湾測量では、江川太郎左衛門に力を貸し、海岸防備に力をそそいだりしました。しかし、その時に小笠原にうらまれて、禁止されている外国と商売をして

いると悪いウワサを流されて、罪人にされてしまいます。最後は、牢の中でかかった皮ふ病に苦しみ、殿様にめいわくがかかるのを心配して自殺してしまいます。

ぼくは、『少年物語渡辺華山』を読んで、田原市に華山神社や、華山会館があるのは、渡辺華山が田原市の発展のために力をつくしてくれた人だからなんだと思い、自分が住んでいる田原市の事が少し分かった気がします。ぼくも華山先生のように、家族を大切にして、弱い人達を助けられるような人になりたいと思いました。

郷土の偉人「渡辺華山」

高松小学校 堀 うらら

私は、渡辺華山先生のことあまり知りませんでした。でも、本を読んで華山先生のことたくさん分かりました。読んでみて「華山先生は本当にすごい人だな」と思ったことが三つあります。

一つ目は、華山先生は小さい頃から大きな度胸をもっていたということです。華山先生は子どもの頃、車に触れてみぞに落ちたとき、泣きもせず、立ち上がるうともせず、仰向けに落ちたまますま

しこんでいたそうです。私は、そのことを知って、華山先生は本当に大きな度胸をもっていた人だったんだなと思いました。私も、何事にも動じない心を持ちたいと思いました。

二つ目は、いろいろな勉強をしていたということです。華山先生は絵や書道の勉強、外国の勉強をたくさんしたそうです。しかも、貧乏なのにがんばって本を買って一生けん命勉強をしました。勉強をたくさんしていたので、ねる時間も四時間くらいしかなかったそうです。でも、そのおかげで、日本のために様々なことをして、助けることができたんだなと分かりました。

三つ目は、日本のために大きく働いたということです。華山先生と高野長英という人は、日本がヨーロッパの植民地になることを恐れ、心配していました。だから、幕府の考えが変わるように、『夢物語』と『慎機論』を書きました。でも、その願いは叶わず、とうとう牢に入れられてしまいました。そして、華山先生は皮膚病になりました。さらに、殿様に引き渡され、田原で罪人として家に閉じこもっていると言われ渡されてしまいました。その後、華山先生は親しい人たちに書き置きを残して、自殺してしまいました。華山先生は、日本のためを思っていたことなのに、牢に入れられ、自殺してしまつたので、正しいことをしてい

たのに、なぜ幕府は華山先生の考えたことが分からなかったのかなと思いました。このことから、華山先生は本当にすばらしい人だと分かりました。

華山先生が椿山にあてた書き置きの中に、「数年経って、また世の中がすっかり変わったら、悲しんでくれる人もあるのでしょうか」という言葉があります。今考えると、その当時にも悲しんでくれる人はいたんじゃないかなあと私は思いました。なぜかという、華山先生のまわりには、先生を信じる人がたくさんいたからです。それから月日が経ち、華山先生の石碑が建てられたのでよかったです。

華山先生の本を読んだり、校長先生の話聞いて、私も華山先生のような立派な人になりたいと思いました。そして、華山先生のことをもっと調べてみたいと思えました。

『少年物語 渡辺華山』を読んで

田原中部小学校 井上歩美

私は、去年の華山劇「板橋の別れ」にナレーター役として参加しました。華山先生は、小さい頃

からとても貧しい暮らしをしていました。そのことが原因で、弟の熊次郎と生き別れることになりました。その、別れの場面を劇にしたものが「板橋の別れ」です。

私には一人お兄さんがいます。よくけんかして、大嫌いと思うことがたくさんあります。でも、そのお兄さんと今からずっと別れることになってしまふと思うと、すごくさみしいです。華山先生は、弟と別れることになって本当に悲しい思いをしたんだと思いました。だから、華山先生の悲しみやつらさ、また、それらを乗り越えて生きていこうとする強さが表現できるようにと練習に取り組みました。

私には以前から不思議に思うことがありました。それは、華山先生が小さい頃から貧乏だったということ、田原藩の家老の家ならお金もあると思っていたので、ずっとなぜだろうと思っていました。そこで、お父さんにそのことを聞いてみると、

「江戸時代の武士は貧乏な人が多いんだよ。それに、田原藩は小さな藩だったから、領地の運営はとっても大変だったんだと思うな。」と答えてくれました。大名と呼ばれる人も、借金をしないと領地の運営が出来ない事を知って、とてもおどろきました。

「立志」の中で、華山先生は勉学の道に進もうとちかいを立てます。その後、寝る間をおしんでひたすら勉強をしました。また、お父さんのために中止になったけれども、家出をしてまでも、長崎へ行って外国の技術を学ぼうとしていました。自分が行けなかったけれど、田原藩の家老になってからは、若い人達を長崎に勉強させに行かせて、「田原の兵学は日本一」と呼ばれるまでにしたそうです。きっとこれは、勉強に行かせてもらった人が華山先生の姿を見習い、必死に勉強したからだと思います。私もまた、そういう人を見習い、がんばって勉強しなくちゃなと思いました。

華山先生の最期はとても悲しかったです。華山先生は今の私たちからすると何も悪くはないのに、華山先生のすごさで有名になれなかった人が華山先生への悪口を言いはじめたのです。家族や友人に迷惑がかかると思い十月十一日、華山先生は切腹しました。

私は華山先生がもう少し生きていてくれたら、もっと活躍してくれたのにと思います。

私は華山先生ほど勉強も出来ないし、努力もしないでいたけれど、これからは少しずつ華山先生のように努力をしていきたいと思えます。周りをお願いやる心を持つ人に、もっともっとなつていこうと思えます。

華山の田原行(十一)

二月十六日

「此日終日揮酒」と一日中頼まれた絵をかいた記述がありますが、いろいろと来客がありました。

- ・川澄又二郎(家老)：藩政の話をしします。
 - ・信亮院(九日に弟子入りした西光寺住職)：絵を写すための手本である臨本を求めます。
 - ・佐藤半助(家老)：酒、重話、梅干等を送ってきます。前日の奏者番の件で、康直によくぞ意見をしてくれた、というお礼でしょうか。さらに、村松百度(近習取次頭)からは、かす付魚、しぐれ蛤。
 - ・中村玄喜(藩医)：和地から来たということまで海苔を持って来ます。そこで、華山は、簀とわくを出し、海苔の製法を伝えます。和地の海苔は、既述のように二月五日に口にしています。
- これだけの物が集まったからでしょうか、この日は、赤井覚右衛門、鈴木喜六、中村玄喜、生田謙吉、鈴木春三と小酌をします。
- この日には、「終日、啄木来た、く」と、一日中



きつつきが木をつついていた記述があり、来客者に聞いたのか、江戸人である華山がきつつきの木をつつく音を知っていたことに興味もたれます。

二月十七日

日にちが変わったので、新たなページから書き始めれば、と思うのですが、十六日のことが書かれているページの最後の行に、「十七日陰夕大風晴」と書かれ、次のページに十七日の出来事が書かれています。

ほかのところにも最後の行に日付を書いてページを変えていることが見られます。これらは、別々の日に書いたのではなく、同じ日にまとめて書いたものなのかもしれません。二月七日のところには、「予先だちて寝たり」と明らかに別の日に書いたと思われる記述があります。こう考えると、何となく筆跡も同じ日に書かれたように思われてきます。

十五日の記述では、華山の諫言により康直の奏者番内願のことは片が着いたように感じるのですが、この日も奏者番の件で一騒動あったことが述べられています。長くなりますが、この日の記述を次に引用しておきます。

「御城に登。上御内願の御事にて明日江戸へ御便御差出あらん。よりにて隼之助へ御書御案文可申上との御事、喜六御使にて御さたあれバ、直可申上候ハ上御内願之事ハ此上なき御精勤之御思召にてあらせられ、私共もありがたく存上候半也。されども如此所為をもて如此思召す所を御もとめ被游候ハ、木に縁り魚をもとむるにて候。これ迄私此地出て凡十五日二及候得共、御一言民二及候御こと葉なく、唯々御内願と計之事にてハ、其根元已ニ御失ひ被游候也。たゞ御同席がたの御浮気に御つれ被游候而ハ、本末に御こゝろつけさせられず候ま、かく首尾御合なき御沙汰あるなりなど、



恐多も身をかえり見ず、これまでの御事など引出し申上たれど、御けしきよし。」

この日の記述は、華山の勘違いで十五日の出来事なのかもしれません。その理由として、

①この日の記述は、二日前に諫言したことに一言もふれていない。

②「これ迄私此地出て凡十五日ニ及候得共」とあるが、華山の田原着は先月末で、十五日なら計算がある。

③防風の例こそないが、十五日の諫言が、「御ひ」と言も此ために被仰出たる事なきはいかにや」

で、この日が、「御一言民ニ及候御こと葉なく」で、似ていること。

この記述の後、「難船一件の事にて田中三右衛門が中人にて水野対馬守様へ御願の御直書被為進候半様にとの事、村奉行祐左衛門、左右衛門呼出し申きかせ上へもねがふ。」とありますので、難船の件で登城したのかもしれませんが。難船の件とは、本会報十七号で書いた紀州難破船貨物横領事件のことです。

この後、「此度もらひもの」として、華山がもらった物が記述されています。

煮豆	紫蘇ミソ漬	酒トクリ共来	豆入タケノコ	鈴木弥太夫	松露	招飲	酒	重詰五ツ	ニマメ	兎カキ肉	町庄七		
コウ	にしめ	うめ干	酒	モチ	佐藤半助	酒	重詰五ツ	ニマメ	兎カキ肉	町庄七	信亮院		
かず	く	おくれる	いろ	く	世話	金山寺	ゴボ	ソバコ	コブ	ノリ	松岡貢		
ウ	鳥	コウノモノ	いか	の煮付	雪吹伊織	平山忠左衛門	茶飯	重ツメ	黒鯛式ツ	菜飯	上条喜兵衛		
酒	めし	にしめ	鈴	春三	防風	大嶋祐左衛門	鳥賊一ツト	酒	さかな	三重	茶飯	菜	竜門寺
青のり	五	二村吉太夫	河合平左衛門	中村玄喜	鈴木俊二	菓子	マンヂウ	モチ	金田心蔵	竜泉寺			
ナットウ	茶飯	にしめ	三重	萱生松山	酒	カキ	カキ	ウドン	ボラ	研究員	柴田雅芳		
コノハタ	ナットウ	二度	ウドン	ボラ	酒	カキ	カキ	ウドン	ボラ	研究員	柴田雅芳		

(続)

財団法人華山会から
田原市博物館
のご案内

企画展のご案内

十一月六日(日)

秋の企画展 華山没後一七〇年江戸後期の新たな試み 洋風画家谷文晁・渡辺華山が描く風景表現

(特別展示室・企画展示室一)

文晁・華山を中心に、同時期の洋風画家の作品から当時の人々が見た風景、幕末から明治に登場した名所浮世絵を概観し、江戸という時代を現代によみがえらせます。

同時開催・愛知県美術館サテライト展示(企画展示室二)

一月五日(木)～二月五日(日)

新春企画展 故郷への想い 大岡澄雄展—水彩・油彩画の世界—

大岡澄雄は、田原市堀切町に生まれ、現在も東京で日本水彩画会常務理事として活躍。故郷「渥美半島」への想い

大岡澄雄 夕照
伊良湖水道二〇〇六年



が込められた作品やその時々の特イマにより描かれた水彩・油彩画の数々を展示紹介しながら、その画業を振り返ります。

ギャラリートーク 一月十四日(土) 午後一時三十分

同時開催・渡辺華山 龍と虎

華山筆豊干禅師騎虎図、龍虎双幅、十二支図巻などを展示します。

平常展のご案内

二月十一日(土)～四月八日(日)

渡辺華山と華椿系の松竹梅

田原市指定文化財渡辺華山・小華筆福祿寿図、田原市指定文化財渡辺華山筆風竹之図、椿椿山筆寒香図、福田半香筆松竹梅山水図、渡辺小華筆鶴松竹などを展示。

ひな人形と初風展

田原の旧家に伝わったひな人形や田原風保存会制作の初風などを展示。

常設展示室では渡辺華山の生涯を展示しています。

民俗資料館では田原の暮らしを中心に展示しています。

渥美郷土資料館・赤羽根文化会館展示室でも所蔵品を展示しています。

観覧料

秋の企画展 一般五〇〇円 (四〇〇円)

新春企画展 一般四〇〇円 (三三〇円)

企画展開催時は小・中学生無料 平常時 一般 二二〇円(二六〇円) 小・中学生 一〇〇円(八〇円)

毎週土曜日は高校生無料 (一)内は二十人以上の団体料金

休館 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替日、十二月二十七日～一月四日

(財)華山会から

華山・史学研究会会員募集中
申込場所 華山会館事務室
毎月第四土曜日研究会
視察研修(年一回)に参加できます。

田原市博物館友の会会員募集中

入会申込書に年会費千円を添えてお申し込みください。

特典

博物館への無料入館
展覧会・催し物のお知らせ
見学会に参加できます。
博物館だより(年数回)・華山会報をお送りします。

華山会報 第二十七号

平成二十三年十一月一日発行
編集発行 財団法人華山会
理事長 白井孝市
常務理事 菰田稀一
事務局長 讚岐俊宣

千四四一―三四二一
愛知県田原市田原町巴江二二の一
TEL 〇五三三―二二一・一七〇〇
FAX 〇五三一・二二一・一七〇一

編集・協力
田原市博物館
華山・史学研究会

吉川利明 林 和彦
山田哲夫 別所興一
林 哲志 中村正子
小川金一 柴田雅芳
加藤克己 中神昌秀
増山禎之 磯部奈三子

※華山会報ご希望の方は華山会館・田原市博物館にお申し出ください。
次回発行予定 平成二十四年四月一日